

■ (72) いつになるのか、「震災後」と言えるのは

東日本大震災からまもなく1年となる。新聞やテレビ、週刊誌も震災1年の特集を組んでいる。被災地や被災者の現状を伝えるとともに、次に備える教訓を探る内容が多い。1年というのは、物事を振り返り、現状をとらえるには大切な機会と位置づけているためだ。

しかし、今回の震災では、いまだに行方不明の人が約3300人おり、警察や海上保安庁は海を中心に捜索を続けている。捜し続けている家族らにとって、2012年3月11日は何の意味も持たない。そんな気持ちの人たちがあまりにも多い。助かった人たちにとっても、集団移転の道筋が見えてこないため、新たな住まいをどこに、どうやって建てるのかわからない日々が続く。災害はいつになったら終わるのか。まして、まだまだ続く福島原発事故は、「収束」がまったく見えない。あまりにも時間の単位が長い。

テレビの報道番組で、「震災後」という表現が使ったところ、被災者から「私たちにとって震災はまだ続いている」とおしかりを受けた、と番組内でキャスターが謝っていた。震災1年は何の節目にもならないことを肝に銘じ、震災2年目の報道を続ける。(山)